

科目	週時数
国語探究G(設定)	2 時間

目標	大学での研究活動に耐えうる、基本的な言語技能を習得する。	
	知識技能	社会全般に対する広い視野と、自身の興味関心に基づいた専門的な知識、考察をバランスよく持てるようにする。加えて、探究のために必要な情報検索能力を身につける。
	思考判断表現	論理的な思考力、適切な引用能力、時と場に応じた言語活用能力を身につける。
	主体性協働性多様性	個人で、または他者と相談し協力しながら学びを進め、効果的なプレゼンテーションを実現できるようにする。また、他のプレゼンテーションから良い点を学び、自分の発表に有機的に取り入れられるようにする。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 要約文並びに小論文における、表現及び表記上の注意事項の確認(前年度までの既習事項の復習も含む) 要約文並びに小論文演習 面接並びにプレゼンテーション体験 	<ul style="list-style-type: none"> 要約文並びに小論文の基本的な書き方を学ぶ。 面接のマナーを学ぶ。 効果的なプレゼンテーションの仕方を学ぶ。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 要約文並びに小論文完成 面接演習 プレゼンテーション演習(学内での発表) 	<ul style="list-style-type: none"> 課題文における筆者の主張のポイントを的確に読み取り、それを踏まえた要約文を完成させる。また、読み手にその内容を十分に理解してもらえるような論理展開を意識して小論文を書く。 好ましい面接態度を研究し、実践する。 効果的なプレゼンテーションを実践する。

授業の形態	一斉授業、グループ学習
主たる教材	「小論文チャレンジノート」(第一学習社) 「現代文100字要約ドリル」(駿台文庫)
副教材	特になし
評価の方法	定期試験、教材中の課題の提出(要約文や小論文の作成)、プレゼンテーションの内容等による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習の復習を確実に行って、全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って、指示された内容の成果物を提出する
	④準備	授業や諸活動に必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	授業を聞く姿勢を整え、互いの学力向上のために仲間と協力しながら、主体的に授業中の諸活動に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	主たる教材の提出課題やプレゼン資料において、効果的な工夫がされており、進歩が見られる
	60%	主たる教材の課題やプレゼン資料等を決められた条件のもとに完成させる

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
地理探究	3 時間

目 標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
育 っ て たい 力	知識技能	地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
	思考判断表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
	主体性協働性多様性	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深める。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	第1部 現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境 第2章 資源と産業 第3章 交通・通信と観光、貿易 第4章 人口、村落・都市	・地形、気候、生態系などに関わる諸事象を基に、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、地球環境問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。 ・資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象を基に、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、資源・エネルギー、食料問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。
2 学 期	第1部 現代世界の系統地理的考察 第5章 生活文化、民族・宗教 第2部 現代世界の地誌的考察 第3部 現代世界におけるこれからの日本の国土像	・生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象を基に、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、民族、領土問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。 ・世界や世界の諸地域に関する各種の主題図や資料を基に、世界を幾つかの地域に区分する方法や地域の概念、地域区分の意義などについて理解する。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習 ICTを活用した学習
教科書	『新詳地理探究』(帝国書院)
副教材	『新詳地理探究演習ノート』(帝国書院)、『新詳高等地図』(帝国書院)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	単元ごとに振り返りを行い、各テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書の語句、事象の因果関係、資料等の理解を説明できる
	60%	授業内で行われる小テスト得点率100%

※80%＝80点を取るための目安。

科目	週時数
数学Ⅲ	4 時間

目標	極限、微分法および積分法について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。	
	知識技能	数学的活動を通して、極限、微分法および積分法における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につけている。事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の技能を身につける。
	思考判断表現	数学的活動を通して、極限、微分法および積分法における数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的に捉え表現できる。
	主体性協働性多様性	自ら課題を見いだし、解決するための構想を立て、考察・処理し、その過程を振り返って得られた結果の意義を考えることができる。自らの考えを数学的に表現し根拠を明らかにし、ICTを活用し、説明したり、議論したりすることができる。学習した内容を生活と関連付け、具体的な事象の考察に活用することができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ○関数と極限 ○微分 ○微分の応用 ○積分とその応用 	<ul style="list-style-type: none"> ○分数関数、無理関数、合成関数、逆関数についての性質を理解する。無限数列、無限級数及びその和、関数の連続について学ぶ。 ○微分法の基本的な公式を理解し適切に利用できる。 ○関数の増減に着目し、その変化に応じた処理ができる。 ○積分法の基本的な公式を理解し適切に利用できる。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ○問題演習 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な定理や公式を正しく用いて、様々な微分・積分の計算ができる。

授業の形態	一斉授業、グループ学習
教科書	『数学Ⅲ Standard』(東書 数Ⅲ 702)
副教材	WIDE 数学Ⅲ (東書)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト・課題の提出物・授業態度等)による総合評価
備考	章ごとに問題演習の時間をとり、応用力を身につける

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書のTrainingの完全理解
	60%	教科書の例題・問の完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
数学C	2 時間

目標	ベクトル、平面上の曲線、複素数平面について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。	
	知識技能	数学的活動を通して、ベクトル、平面上の曲線、複素数平面における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につけている。事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の技能を身につける。
	思考判断表現	数学的活動を通して、ベクトル、平面上の曲線、複素数平面における数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的に捉え表現できる。
	主体性協働性多様性	自ら課題を見だし、解決するための構想を立て、考察・処理し、その過程を振り返って得られた結果の意義を考えることができる。自らの考えを数学的に表現し根拠を明らかにし、ICTを活用し、説明したり、議論したりすることができる。学習した内容を生活と関連付け、具体的な事象の考察に活用することができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	○ベクトル ○平面上の曲線	○平面上のベクトルの考えを理解し、ベクトルに関する基本的な用語、記号に習熟する。また加法、減法および実数倍を用いた演算や平行、分解について理解する。 ○ベクトルの内積、位置ベクトルとその基本性質を理解する、ベクトルを利用して、平面図形に関するいろいろな問題を考察できる。 ○空間における座標を定め、空間の点が3つの実数の組として表現できることを理解する。また、平面と同様に、空間においてもベクトルを考えることができることを理解する。 ○空間のベクトルについても内積や位置ベクトルを考えることができることを理解し、いろいろな図形の問題に応用できる。 ○2次曲線、極座標について理解を深める。
2 学期	○複素数平面 ○問題演習	○複素数平面の概念、極形式、ド・モアブルの定理を学び、図形への応用や複素数の方程式を解くことができる。 ○様々な定理や公式を用いて、ベクトル、平面上の曲線、複素数平面の計算ができる。

授業の形態	一斉授業、グループ学習
主たる教材	『数学C Standard』(東書 数Ⅲ 702)
副教材	WIDE 数学C(東書)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	章ごとに問題演習の時間をとり、応用力を身につける

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書のTrainingの完全理解
	60%	教科書の例題・問の完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
物理	3 時間

育 て たい 力	目標	物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。
	知識技能	物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めることで、自らで課題を見つけ、考え、見通しをもって主体的かつ意欲的に観察、実験などに取り組む。
	思考判断表現	自然の事物・現象に関する基本的な原理・法則を系統的に理解し、自然を探究する能力と態度を身につけ、他科目の学習成果とも関連させて、自然界の事物・現象を分析的、総合的に考察する能力を育成する。
	主体性協働性多様性	物理的な事物・現象に対して、興味・関心を高め、知的好奇心をもって問題を見出し、主体的に解決しようとする意欲を高める。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	第3編 波(波の性質、音と光) 第4編 電気と磁気 (電流と磁界) 第5編 原子 (電子と光、原子と原子核、物理学が築く未来)	<ul style="list-style-type: none"> 水面波、音、光などの現象を観察、実験などを通して探究し共通する基本的な概念や法則を、日常生活や社会と関連付けて系統的に理解する。 電磁気に関する現象、更には電子、原子及び原子核に関する現象を観察などを通して探究し、電気と磁気に関する基本的な概念や原理・法則を系統的に理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようになる。 授業で扱うプリントが終わったら、もう一度全体を振り返り、一歩深い根拠の理解に至る。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> グループ学習により、第1編～第5編の中から、学院大の志望学科に即した分野を深める(「特集」と「探究」) 問題演習(「章末問題」) 	<ul style="list-style-type: none"> 問題演習を通して、物理法則が成り立つ条件や、数学的な処理についての理解を深める。 実験や観察を通して、物理の原理や法則を深く理解するとともに、装置の工夫やデータの扱い方についても理解を深める。

授業の形態	一斉授業
教科書	『物理』(東京書籍)
副教材	自主教材(プリント)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	自主教材(プリント)の内容の理解、発展課題内容の理解
	60%	自主教材(プリント)の内容の理解

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
化学	3 時間

目標	化学は物質について学習する教科であることを理解し、化学的な事物・現象に関する基本的な原理・法則を理解するとともに、身の回りの事物・現象を化学的に探究する方法を身につける。	
	知識技能	基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を身につけることができる。化学現象について、学習した知識を基に、定量的かつ定性的に扱うことができる。
	思考判断表現	実験結果のデータや表を基にして、化学現象を客観的にとらえることができる。化学現象について、原子・分子レベルで考え、他者にわかりやすく説明できる。
	主体性協働性多様性	目的意識をもって観察、実験を行ない、化学的に探究する能力と態度を身につけることができる。主体的に課題に取り組むことにより、興味・関心を高めることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 有機化学(脂肪族化合物) 有機化学(芳香族化合物) 	<ul style="list-style-type: none"> 異性体の数を正確に求められるようにする。 アルコールの酸化など基本反応を理解する。 ベンゼン環を有する芳香族化合物の基礎知識を身につけ、各性質に応じた分類ができる。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 合成高分子化合物について 天然高分子化合物について 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に関連する高分子化合物の合成法・性質を理解する。

授業の形態	一斉授業
教科書	『新編化学』(数研出版)
副教材	セミナー化学基礎+化学(東京書籍) サイエンスビュー化学総合資料(実教出版)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	「セミナー化学基礎+化学」の応用問題の完全理解
	60%	「セミナー化学基礎+化学」の基本問題の完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
体 育	3 時 間

目 標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動の技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。	
	知識技能	社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基本的な事項を理解し、知識を身につける。また、自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の技能を高める。
	育 たい 力	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫する。
	主体性 協働性 多様性	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身につけるとともに、健康・安全に留意して自ら計画的に運動をしようとする。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学 期	体づくり運動、新体力テスト *組体操(徒手体操)、体育祭の練習 体育理論 テニス バレーボール ソフトボール	<ul style="list-style-type: none"> ・運動を通して自分や仲間のからだや心の状態に気づき、からだの調子を整えたり、仲間と楽しく交流する。 ・様々な体の使い方を学び、各自で種目を選択し互いに協力・補助し、連続技に挑戦する。 ・ネット型では役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。 ・ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作、連携した守備などによって攻防を展開する。 ・安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。
2 学 期	体育理論 バスケットボール サッカー 卓球 バドミントン	<ul style="list-style-type: none"> ・運動技術と運動技能の違いを知り、それぞれの運動種目に応じた運動技術について理解する。 ・ネット型では役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。 ・ゴール型では状況に応じたボール操作と空間を埋める動きによって空間への侵入などから攻防を展開する。 ・安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。

授業の形態	一斉授業 グループ学習
教科書	『高等学校保健体育』(第一学習社)
副教材	ステップアップ高校スポーツ(大修館)
評価の方法	実技試験と体育レポート、定期試験(種目の歴史とルール)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	実技では規定の技能を正確に行う。筆記試験はルールや歴史を理解する。
	②実技テスト	競技の特性を理解し、指示されたポイントを踏まえて取り組み満点を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	規定の服装で授業を受けること
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

科目	週時数
英語コミュニケーションⅢ	4 時間

目 標	日常的・社会的な話題について、支援をほとんど活用しなくても、 1. 必要な情報を聞き・読み取り、話・文章の展開や話し手・書き手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることができる。 2. 多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝え合うことができ、会話を発展させることができる。また、課題の解決策などを論理的に詳しく話して伝え合うことができる。 3. 多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができる。	
	知識技能	まとまりのある説明文を理解したり、実用的な文章から情報を得て、整理することができる。 日常生活についてのまとまりのある内容をよく理解することができる。 専門的内容を含む話や会話を聞いて、主題と詳細情報を区別して理解することができる。
	思考判断表現	書き手の意図を理解して、自分の意見と比較しながら批判的に読むことができる。 日常生活の話題について、構成を意識して文章を書くことができる。 自分の意見や感想を論理的に整理し、説得力のある文章を書くことができる。
	主体性協働性多様性	日常生活の出来事を説明したり、用件を伝えたりすることを、簡潔かつ適切に行うことができる。 専門的内容を含む話題について、新たな質問を思いつくなどして話題を発展させることができる。 話し合いの場ではリーダーとして意見の集約をすることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	Unit 1 What thinking and study habits can help us succeed? Unit 2 How can we use AI to improve education? Unit 3 What do folktales tell us about human values? Unit 4 What items would you place in a time capsule? Speaking Strategies 1 Writing Strategies 1	以下のテーマについて、円滑なコミュニケーション活動ができるようになる。 〈学習方法／仕事に有効な考え方・習慣について考える〉 〈AIの進化と活用、社会への影響を考える〉 〈文化人類学の観点から、世界の民話の特徴や類型を学ぶ〉 〈「タイムカプセル」に残された物から何を学べるか、未来に向けて何を残したいかを考える〉
2 学期	Unit 5 What are the rewards and challenges of living in a different culture? Unit 6 How can art be made accessible to all? Unit 7 How can we preserve life below water? Unit 8 Is there anything money can't buy? Speaking Strategies 2, 3 Writing Strategies 2, 3	以下のテーマについて、円滑なコミュニケーション活動ができるようになる。 〈様々な事例から、異文化の中で暮らすことの意義と困難について考える〉 〈だれもが楽しめる芸術のり方について考える〉 〈持続可能な社会のための資源の開発や養殖の取り組みについて知る〉 〈スポンサーシップや命名権などの金銭と倫理の問題について知る〉

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	Enrich Learning English Communication Ⅲ (東京書籍)
副教材	スタディサプリENGLISH4技能コース(リクルート)
評価の方法	定期試験・実技試験・小テスト・提出物の他、授業への意欲・姿勢を総合的に評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	授業で扱った英文や問題と答え、小テスト問題をほぼ全て理解、暗記している
	60%	授業で扱った英文や問題と答え、小テスト問題を全て理解している

※80%＝80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
英語探究Gr	2 時間

目 標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。	
育 て た い 力	知識 技能	簡単な説明文を理解したり、図や表から情報を得ることができる。 日常生活の話題や簡単な説明・指示を理解することができる。 短い内容や会話を聞いて、話者の意図や内容の状況を理解できる。
	思考 判断 表現	1つの段落内の要点や内容のつながりを理解できる。 興味・関心のあることについて簡単な文章を書くことができる。 自分の意見や感想を整理し、文章構成を意識して書くことができる。
	主体性 協働性 多様性	日常生活で簡単な用を足したり、興味のあることについて考えを述べるができる。 自分のスピーチに対する質問に英語で答えることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	Lesson 1 A City Worth Visiting Lesson 2 Our Hometowns Lesson 3 What Makes a City Attractive? Lesson 4 How Do You Spend Your Time? Lesson 5 Trying Something New Lesson 6 The Art of Translation	以下の項目を活用した円滑な言語活動が行えるようにする。 受動態・動詞・助動詞・形容詞／副詞・比較
2 学 期	Lesson 7 Combatting Climate Change Lesson 8 Future Energy Sources Lesson 9 Discussing the Environment Lesson 10 Globalization and Immigration Lesson 11 What is Fair Trade? Lesson 12 Helping to Fight Poverty	以下の項目を活用した円滑な言語活動が行えるようにする。 関係詞・不定詞・動名詞・分詞

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	be CLEAR English Logic and Expression III (いいずな書店)
副教材	スタディサプリENGLISH4技能コース(リクルート)
評価の方法	定期試験・実技試験・小テスト・提出物の他、授業への意欲・姿勢を総合的に評価
備考	特になし

到達 目 標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	授業で扱った英文や問題と答え、小テスト問題をほぼ全て理解、暗記している
	60%	授業で扱った英文や問題と答え、小テスト問題を全て理解している

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
聖書(設定)	1 時間

目 標	人類の遺産である聖書の基本的知識及び価値観を学び、グローバル社会で公共の精神に生きる力を育てる。	
	知識 技能	歴史的、社会的背景を踏まえて本文を正しく理解する。 2000年の歴史を経ての今日的意義を探究する。
	思考 判断 表現	自分も含めた様々な人々から社会が形成されていることを知り、いかに共生するかを考える。 神の前で人間は有限であるが、同時に有意味である自己肯定感を促す。
	主体性 協働性 多様性	異なった考えを積極的に捉え、これまでの自分の価値観と対比し生きる糧とする。 仲間と聖書を読み合うことで、全体の共同性を確認する。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史性、普遍性、倫理性 ・創立の経緯 ・3L精神 ・建学の精神 ・新約聖書概論 ・日本の宗教とキリスト教 ・主の祈り ① ・主の祈り ② 	<ul style="list-style-type: none"> ・聖書を学ぶ、必要性を知る。 ・伝統の中に多くの人々の犠牲と奉仕があることを知る。 ・3校祖と3L精神を学び、学院生としての自覚を促す。 ・教会の礼拝と、学校の礼拝の違いを知る。 ・イエス・キリストの生涯と、新約聖書の概観を知る。 ・無意識で取り組んでいた日本の「宗教」を理解する。 ・本来あるべき、神との関係性について知る。 ・本来あるべき、隣人との関係性について知る。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・新約聖書と旧約聖書の関連 ・旧約聖書概論 ・十戒 ① ・十戒 ② ・教会暦 	<ul style="list-style-type: none"> ・時代の違い、ユダヤ教徒の関連を知る。 ・古代イスラエル史と共に、その豊かな知恵を知る。 ・本来あるべき神との関係性について知る。 ・本来あるべき隣人との関係性を知る。 ・一年を通じてキリストの生涯を意識しつつ生きる。

授業の形態	一斉授業
主たる教材	聖書
副教材	なし
評価の方法	定期試験、提出物、小テストによる総合評価
備考	特になし

到達 目 標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

科 目	週 時 数
3L希望学 I	1 時間

目 標	ESDとキャリア学習を通して、主体的、創造的、協働的に課題に取り組む力を育み、加えて未来を展望して、自らの使命を考える。	
育 っ て たい 力	知識 技能	世界にある様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの解決につながる新たな価値観、行動を生み出すこと、それによって持続可能な社会の創り手となることができるように教科学習や探究活動を通して得た知識を組み合わせることができる力を養う。
	思考 判断 表現	個人またはグループごとに仮説を立案し、その検証のために調査し、討議し、まとめ、発表し、行動する学習活動を通して、探究する力を養う。
	主体性 協働性 多様性	自分の興味関心や希望進路に沿って設定した課題について、その解決のために何が必要か、どうしたらよいか、自分に何ができるかを級友たちと協働的・探究的に学ぶことを通して、社会の中での自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していく力を養う。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学期	「課題研究」	個人の興味関心に応じて課題を設定し、課題探究を進め、論文にまとめ発表する。 また、探究活動の成果を外部コンテストでの発表に向けて準備を進める。
2 学期	「課題研究」	これまでの探究活動を踏まえ、社会課題にどのように向き合い、その解決のためにどのように役割を果たすかについて考えることを通して、次の進路に向けて自らの考えを表現する。

授業の形態	個人の探究活動 ワークショップ
教科書	なし
副教材	なし
評価の方法	学習記録、報告・作品(レポート、発表など)の内容や提出状況、ルーブリックによる自己評価・相互評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	なし
	②小テスト	なし
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	自分の興味関心と社会のあり方の関係について考え続ける態度を理想とする

科 目	週 時 数
3L希望学Ⅱ	1 時間

目 標	地域社会で課題解決に取り組む方の実践を学ぶことを通して、主体的、創造的、協働的に課題に取り組む力を育み、地域社会における自らの使命を考える。	
育 っ て たい 力	知識 技能	地域課題の解決につながる新たな価値観、行動を生み出すこと、それによって持続可能な社会の創り手となることができるように教科学習や探究活動を通して得た知識を組み合わせることができる力を養う。
	思考 判断 表現	クラスやグループごとに仮説を立案し、その検証のために調査し、討議し、まとめ、発表し、行動する学習活動を通して、探究する力を養う。
	主体性 協働性 多様性	持続可能な地域社会づくりのためには何が必要か、どうしたらよいか、自分に何ができるかを級友たちと協働的・探究的に学ぶことを通して、社会の中での自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していく力を養う。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学期	「地域課題探究」	東北学院大学地域連携センターとの連携事業として、仙台市荒町地区・連坊地区をはじめとした地域でボランティア活動を行うことを通して、地域の課題について理解し、課題解決の方法について理解を深める。
2 学期	「地域課題探究」	東日本大震災で被災した沿岸部の復興に取り組む方とボランティア活動を行うことを通して、地域の課題について理解し、課題解決の方法について理解を深める。 マイナビのlocusを用いて、企業の繋がり(サプライチェーン)やイノベーションの事例など企業の取組事例をヒントに、地域や社会の課題解決を考え、生きる力を身に付ける。

授業の形態	一斉授業 講演 グループ学習 現地での活動
教科書	なし
副教材	なし
評価の方法	学習記録、報告・作品(レポート、発表など)の内容や提出状況、ルーブリックによる自己評価・相互評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	なし
	②小テスト	なし
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	自分の興味関心と社会のあり方の関係について考え続ける態度を理想とする

科 目	週 時 数
プレカレッジ	PC① 2 PC② 1 計 3 時間

目 標	東北学院大学と連携して、東北学院大学の模擬講義の受講を通して多様な視点から大学教員の指導を受けることで、思い込みにとらわれない適切な進路選択を可能にし、また将来に生きる幅広い知識の獲得を目指す。 また現代の情報基盤社会についての基礎的な知識の習得を通して、情報化に適応し、積極的に参画するための能力を育成する。	
育 っ た い 力	知識 技能	各学部学科の学びの特徴を理解することができる。 自分自身の興味関心と大学での学びの結びつきを明確に理解することができる。 情報および情報基盤社会についての基礎的な知識と、必須となる情報機器の使用方法を理解している。
	思考 判断 表現	自らの進路選択について深く考え、適切に判断できる。 大学での学びに求められる手法を身につけ、適切に表現することができる。 情報機器やネットワーク環境の特性を踏まえ、論理的に情報を取捨選択し、適切に情報を受発信することができる。
	主体性 協働性 多様性	高大連携の意義を理解し、明確な進学意識をもって授業に臨むことができる。 大学での深い学びに対して、協働して取り組むための準備ができている。情報基盤社会の成員としての自覚をもち、他者を尊重しながらそれに積極的に参画する態度を身につけている。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学 期	「東北学院大学訪問」 「PC②」 ・情報と情報基盤社会について ・情報機器の構造	東北学院大学を訪問して希望する学部の模擬講義を受講し、学部学科の学びについて理解を深め、各学部学科の専門教育の内容にも触れることで、自らの進路決定の一助とする。 現在の情報通信環境がどのように形成されたのかを理解する
2 学 期	「東北学院大学準備講座」 「PC②」 ・情報通信ネットワークについての基礎知識 ・情報セキュリティについて	希望進路と学びたい学問分野の結びつきを明確にし、東北学院大学の希望学部・学科と希望進路の結びつきの整合性を確認する。 東北学院大学の希望学部・学科の志望理由を文書で説得的に表現する。 情報通信ネットワークを適切に活用する能力を身につけ、情報基盤社会における危機管理能力と情報モラルを習得する。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習 PC一人1台環境による講義形式の授業
主たる教材	自主教材 コンピュータ概論 情報システム入門
副教材	なし
評価の方法	レポート等、定期試験と実習課題による
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	なし
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	自分の興味関心と社会のあり方の関係について考え続ける態度を理想とする